

平成30年度 事業報告

はじめに

わが国経済は、緩やかな回復が続いているとされるものの、所得や消費の伸びは勢いを欠き、デフレ脱却の道筋は描けておりません。また、米中貿易摩擦の影響など、先行きの不透明感は増しており後退局面に入りつつあることが懸念されます。一方、労働面においては、働き方改革が提唱されているなかで、中小企業を中心に人手不足の深刻化により労働力確保が困難な状況になってきております。さらに、あらゆる業界でデジタル技術の進展に注目が集まってきており、医療分野においても利用拡大が見込まれております。

当協会においても、平成30年度にPACS・レポートシステムを導入して、画像系分野の一元管理による業務プロセスを改善するなど、体制の強化に努めました。また、業務の一層の効率化とサービス向上を目的とした新健診基幹システムの開発についても、平成30年度より構築を開始し、2021年度の本格稼働を目指して鋭意取り組みを進めております。

事業面においては、人間ドックにおける当日結果説明の実施や、胃内視鏡検査における経鼻内視鏡の健診枠の拡充、受診者の負担軽減を目的とする翼状針採血の推進など、サービスや精度の向上に努めてまいりました。また、特定健診・特定保健指導の受診率の向上を図るために、積極的な受診勧奨や受診しやすい環境づくりに努めました。さらに、予防医学フォーラム等講演会の開催や機関誌「あすの健康」の発行、ホームページの充実等で健康情報を広く発信するなど、予防医学の普及・啓発活動にも引き続き取り組んでまいりました。

経営面においては、平成29年度をもって健康ライフプラザの指定管理事業が終了となったことなど、平成30年度は非常に厳しい状況になることが見込まれておりましたが、施設健診における受診者数増や、出張健診における新規受託、また、建物減価償却費の遡減等もあり、当期経常増減で黒字を確保することができました。しかし、今後は多額のシステム投資にかかる支払や、減価償却も控えており、厳しい状況であることに変わりありません。

当協会としましては、引き続き経費の抑制に努め、早期の経営基盤の安定を目指すとともに、予防医学事業の充実、健診・検査の精度向上を図り、これからも健康寿命の延伸に資するという社会的使命を果たすためにさらなる努力を続けてまいります。

事業の概要

公益目的事業

当協会は、行政諸機関や地域医療機関及び保健機関との密接な協力関係のもと、各種健診・検査、健康支援及び健康教育等を行い、県民の疾病予防と健康増進に寄与することを目的とし、次の1から4の公益目的事業を実施した。

1. 疾病予防に関する知識の普及・啓発事業

(1) 広報・情報提供

①機関誌「あすの健康」の発行

予防医学の知識の普及・啓発や健康づくりに関連する情報を広く提供することを目的に機関誌「あすの健康」を発行し、地方公共団体、関連団体、事業所及び各種団体等を通じ県民に健康情報等を発信した。

②ホームページでの情報提供事業

機関誌「あすの健康」の全面掲載、「予防医学フォーラム」「いきいきライフセミナー」等の講演会案内・報告に加え、当協会内の情報をブログに掲載する等、予防医学に関する情報発信を行った。また、指定管理事業が終了した健康ライフプラザのページの更新、当協会幹部医師、神戸市認知機能検診、採用情報等のページを追加する等、適宜更新を行った。

(2) 講演会開催、講師派遣、普及・啓発活動

予防医学の知識の普及・啓発を目的として、昭和46年に県民等を対象に「予防医学講演会」としてスタートした活動も現在、「予防医学フォーラム」「いきいきライフセミナー」「がんをよく知るための講座」を定期的で開催している。今年度は、次に示すテーマで開催した。

また、地域団体等からの要請を受けて講演会・講座への講師派遣を行った。

①講演会開催

(ア) 予防医学フォーラム

昭和61年より、予防医学の普及・啓発を目的として、病気の話をはじめ、健康づくりや教養等様々なテーマを取り上げ、神戸新聞社との共催で開催している。今年度の開催内容は以下のとおり。

◇開催日 平成30年11月10日(土)

◇場所 神戸新聞松方ホール

◇講演 テーマ 「食べかた上手ー健康長寿のコツ」

講師 神奈川県立保健福祉大学学長・日本栄養士会会長 中村 丁次 氏

◇後 援 兵庫県／神戸市

◇参加者数 619名

(イ) いきいきライフセミナー

平成6年より、毎年9月のがん征圧月間にちなみ“がん”や“健康”等をテーマに神戸新聞社との共催で開催している。今年度の開催内容は以下のとおり。

◇開催日 平成30年9月8日(土)

◇場 所 神戸新聞松方ホール

◇講 演 テーマ 「健康長寿を実現するための新常識

－中之条研究から見えてきた、“病気にならない生活法”

講 師 東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム

専門副部長 青柳 幸利 氏

◇健康表現体操 指 導 健康運動指導士 他

◇後 援 兵庫県／神戸市

◇参加者数 518名

(ウ) がんをよく知るための講座

平成10年度より、日本人の死亡原因のトップである“がん”について、最新の治療方法等、専門家から正しく新しい知識を学ぶことをテーマに、神戸新聞社との共催で開催している。今年度は以下の2回を開催した。

(i) ◇テ ー マ 「胆管がんについて」

◇開催日 平成30年7月4日(水)

◇場 所 健康ライフプラザ 5階多目的室

◇講 師 神戸大学医学部附属国際がん医療・研究センター長 味木 徹夫 氏

◇参加者数 68名

(ii) ◇テ ー マ 「胃がん治療の最新情報」

◇開催日 平成31年2月5日(火)

◇場 所 健康ライフプラザ 5階多目的室

◇講 師 兵庫県立がんセンター 消化器内科部長 津田 政広 氏

◇参加者数 90名

②講師派遣

事業所や団体が開催する講演会、健康づくり教室等へ次のとおり医師を派遣した。

○講演会へ医師派遣：3回

テーマ「熱中症予防」「腰痛について」「花粉症」

③普及・啓発活動

結核及び乳がんの早期発見を目的に、地方公共団体や各種団体が主催するキャンペーン事業に協力し、胸部 X 線検診車による結核検診及び乳房検診車による乳がん検診を行った。

○こうべ福祉・健康フェア：結核検診受診者 109 名

○母の日乳がん検診街頭キャンペーン：乳がん検診受診者 29 名

○ピンクリボンフェスティバル神戸大会：乳がん検診受診者 51 名

○結核ハイリスク者に対する早期発見および蔓延防止のための啓発活動

結核検診受診者：957 名

○子宮の日啓発イベント：乳がん検診受診者 22 名

2. 疾病予防のための健康診断及び検査事業

(1) 地域保健

①特定健康診査及びがん検診

地方公共団体からの委託を受け、市民健診（国保特定健康診査・後期高齢者健診・若年者健診）を拠点会場において集団健診で実施した。休日健診実施や胃がん・乳がん検診同日実施等受診者サービスの向上を図り受診率の向上に努め、一部の自治体の市民健診会場においては、保健師や健診スタッフが重症化予防のための啓発を行い、要医療者への受診勧奨を行った。

また、神戸市国民健康保険に加入する方を対象に、特定健康診査とがん検診の同時受診が可能な「セット健診」を、従来の健康ライフプラザ健診センターに加え灘区の健診センターでも新たに実施した。セット健診の受診者には、健診終了後原則全員を対象に、保健師、看護師、管理栄養士が、当日の身体、血圧、血液検査、尿検査の結果を説明し、対象者には特定保健指導及び要医療者への受診勧奨を行った。

平成30年1月より新たに取り組まれている「石綿ばく露者の健康に係る施行調査」を引き続き実施し、過去に石綿にばく露した可能性のある方に対し、健康状態の確認及び健康管理に役立てる機会を提供した。

胃がん・乳がん検診は、通年で地域巡回により実施し、休日の検診実施を含めて受診率の向上に努めた。また、乳がん検診においては、医師・技師をはじめとするスタッフ全員を女性で実施する等受診しやすい環境づくりを推進し、受診率の向上に努めた。

地域大腸がん検診は、冬季限定による郵送方式を主体に実施しているが、神戸市大腸がん検診では、受診機会を広げるため、郵送方式に加え市民健診及び神戸市セット健診時の持込方式を通年的に実施している。平成23年度から5年間実施された「働く世代の大腸がん検診推進事業」による無料クーポン制度で、毎年約28,000人の新規受診者を得られたが、終了後は10,000人程度に落ち着いている。今年度は、当該制度での新規受診者を含め、逐年受診を推奨するためコール・リコールを行うな

ど、受診勧奨を強化した。一方、地方公共団体も特定健診受診者へのインセンティブとして大腸がん検診無料クーポンを付与するなど、独自の施策で受診率向上を図っている。今後も引き続き地方公共団体が行う事業を積極的に支援し、受診者拡大に向けた広報活動及び受診勧奨に係る提案等を積極的に行っていく。

②結核検診

地方公共団体より委託を受け、拠点会場において集団検診で実施した。また、神戸市からの委託を受け、症状があっても医療機関を受診しないハイリスク者に対する休日や夜間検診及び住所不定者や小規模事業従事者も含めた多様な生活形態への配慮と利便に工夫した検診を実施した。

今後もさらに受診しやすい環境を整備する等、受診機会の確保に努め、県民・市民の結核予防に寄与していく。

③エイズ（HIV/AIDS）検診

神戸市からの委託を受け、神戸市の中心街である三宮地区において、土曜日や夜間に定期実施を行った。また、健康ライフプラザ健診センターにおいては、平日昼間の検診を新たに実施した。

夜間検診で同時に実施できる性感染症検査では、例年通り梅毒、クラミジア検査を実施した。なお、クラミジア検査については、血液検査よりの確な診断が可能である尿による検査を平成26～29年度と同様に実施した。引き続き、受診者へのプライバシーを配慮し、受診しやすい環境を整えていく。

④もの忘れリスク健診及びフレイル健診

認知症発症予防を支援するため、もの忘れや心身の老化の状態をチェックし、改善に向けたアドバイスを行う「もの忘れリスク健診」を実施した。

神戸市市民健診会場においては、国保の特定健康診査を受診していただく65歳を迎えられる方を対象に、加齢とともに全身の予備能力や筋力、心身の活力が低下している状態を早期発見するために「フレイル健診」を実施した。

また、神戸モデルとして平成31年1月より開始された「神戸市認知症診断助成制度」について、第一段階「認知機能検診」の実施医療機関として参画した。

(2) 学校保健

県下の各市町教育委員会及び大学・私立学校法人からの委託を受け、地区医師会の協力を得て、学校保健安全法に基づく腎臓・糖尿病検診、寄生虫検査、心臓検診、脊柱検診及び結核検診を実施した。検体検査分野を始めとして、地方公共団体による入札制度や見積り合せにより厳しい状況であったが、児童・生徒の疾病予防及び健康管理に寄与するために健診・検査の質を低下させることなく、ニーズに応えた日程調整を行う等円滑な実施をめざし、きめ細やかな取り組みを行った。

また、教職員に対する定期健康診断、特定健康診査及び各種がん検診を実施し、各学校における健康管理の充実を図った。

少子化により児童・生徒数は減少傾向にあるが、今後も積極的な検診実施に取り組むとともに、専門医との連携による検診精度の維持・管理に努め、県下の児童・生徒の疾病予防及び健康管理に寄与していく。

(3) 産業保健

地方公共団体や一般企業の事業所等で働く人を対象に、労働安全衛生法に基づく定期健康診断、特殊健康診断及び行政指導によるVDT健診等、職業性疾病予防と早期発見を目的として健診・検査を実施した。

地方公共団体等における入札制度や見積り合せにより厳しい状況が続いているが、当協会が所有する検診車の機動力を生かした出張健診による迅速で柔軟な対応や精度等が評価されたことにより、新規受託や既存契約先と継続して受託することができ、継続的な健康情報の提供による事業所等の労働衛生の向上及び働く人の健康づくりに貢献した。

メンタルヘルス対策にかかるストレスチェック制度については、システム・実施体制等が評価されたことにより、新規受託や既存契約先と継続して受託することができ、引き続き「こころ」と「からだ」の両面から健康の管理・増進に取り組み、働く人の健康づくりを進めていく。

(4) 総合健診

県民の疾病予防と健康増進を目的として、神戸市灘区の健診センターと神戸市兵庫区の健康ライフプラザ健診センターの2施設において総合健診を実施した。

多様なニーズに応えられるよう、総合健診のコースは、「半日ドック」、「2時間ドック」や「一泊ドック」に加え、健診センターでは「肺ドック」や「循環器ドック」、健康ライフプラザ健診センターでは「脳ドック」をそれぞれ実施した。

オプション検査としては、「胸部CT検査」、「頭部MR検査」、「骨量測定」、「マンモグラフィ検査」、「乳房超音波検査」、「子宮頸がん検査」等、希望に応じて幅広い総合健診を実施した。需要が年々高まっている胃内視鏡検査については、かねてより受診者からの要望が強かった経鼻内視鏡の実施体制を健診センターで整えた。今後は健康ライフプラザ健診センターを含めて実施枠を段階的に増やしていく予定である。

今後は受診者の待ち時間の更なる短縮を図るなど接遇面の向上とともに、健康保険組合連合会をはじめ、社会的にも健診後のフォローアップの重要性が求められており、結果説明・要精密検査者への受診勧奨等をさらに充実させ、魅力ある総合健診を提供し、県民の健康増進に寄与できるよう努めていく。

(5) 保健指導

①各種健康診断結果等を踏まえた地域・職域における保健指導

地方公共団体の市民健診会場や事業所に出張して健診結果等を踏まえた保健指導を実施し、健診の継続受診や要医療者への受診勧奨を行った。また、市民健診会場において前年度の健診結果における要医療者のうち、未受診者への受診勧奨を行い、早期発見・早期治療のための受診の動機づけを行った。

加えて、一部の市民健診会場の受診者を対象として、健診センターや健康ライフプラザ健診センターへ健診結果票を受け取りに来ていただくと同時に個別で結果説明や特定保健指導を実施した。

健診センターの人間ドックにおいては、健診当日に結果説明や特定保健指導（初回支援分割なし型）を行った。

②労働安全衛生法に基づく労働者の健康管理、作業管理等における保健指導

「健康づくりのための睡眠指針2014」を踏まえて、睡眠に問題を抱えた人は生活習慣病やうつ病のリスクが高まることや、熟睡のコツや疲労、排泄についての情報を盛り込んだ研修会、インフルエンザ等の感染症予防を目的とした手洗いチェッカーを使用した体験型研修会、あるいは肩こりや腰痛予防を目的とした体操を含む実践型研修会等を行った。また、「治療と職業生活の両立支援」の啓発を目的とした研修会も行った。

③高齢者医療の確保に関する法律に基づく特定保健指導

国民健康保険をはじめ、全国健康保険協会並びに各種健康保険組合等の被保険者及び被扶養者に対し、主に会場に出張して特定保健指導を実施した。初回支援を個別指導で実施し、以後約4ヶ月間にわたり、プログラムにそって階層化で分類された動機付け支援・積極的支援を面接・電話・レター等で指導を実施した。平成30年4月にスタートした第三期特定健診・特定保健指導の改訂に合わせて、一部の市民健診受診当日に、腹囲測定の結果等を基に仮の対象者を選定して初回支援分割型を実施した。

④メンタルヘルス事業のための保健指導

ストレスチェック制度の施行に伴いシステム化し、平成28年1月からストレスチェック事業を開始している。共同実施者契約を締結している事業所については、従業員からの電話相談対応、高ストレス者には医師の面接勧奨を電話やメールで行った。また、ストレスチェックを活かして職場環境改善を行い、働きやすい職場づくりを目的とした研修会を安全衛生委員会や管理職を対象として実施した。

加えて、メンタルヘルス対策の充実・強化のため、事業所職員のセルフケアについての健康教育に関して、認知行動療法や怒りの対処法（アンガーマネジメント）、交流分析等についての研修会を実施した。

⑤H I V等の感染症に関する知識啓発、検査及び指導

夜間H I V抗体・性感染症検診及び即日H I V抗体・H B s 抗原検診等において、検査前の事前説明と検査結果説明を通じて保健指導を行い、予防に関する知識啓発を行った。

⑥電話等による各種相談

当協会での受診結果について、電話等で各種の健康相談に応じ、夏季の脱水や感染症等時事的な健康問題をはじめ、受診結果以外の事柄等についても可能な範囲で健康相談に応じていくことで、広く県民の安心に寄与できるように努めた。

(6) 細胞診

神戸市子宮頸がん検診について、新たなステージに入ったがん検診総合支援事業として、過去5年間に受診歴のない25、27、29、31、33歳の対象者に受診勧奨ハガキが、また20歳を迎える市民に無料クーポン券がそれぞれ送付された。通常検診（20歳以上・2年毎）は、セット健診の約1,500件を含め約26,000件で、前年度より約300件増加した。無料クーポン券による検診は約900件で、前年度より約100件減少した。神戸市子宮頸がん検診全体では、約26,900件で、前年度より約200件増加した。さらに、平成29年度の液状処理細胞診（LBC）導入により、精度の高い検診を継続実施した。神戸市子宮頸がん検診以外の医療機関からの受託分については、約3,400件で、前年度とほぼ同数、また当協会施設内検診分については約9,000件で、これも前年度とほぼ同数であった。

喀痰細胞診について、神戸市肺がん検診は約8,700件であり、前年度より約600件増加した。このうちセット健診分は約4,700件で、前年度より約1,200件増加した。一方、指定医療機関分は約4,000件で、前年度より約600件減少した。これは、神戸市が検査対象条件を見直すよう、医療機関への周知を図ったためと思われる。また、当協会内部検査分は約500件で、前年度とほぼ同数であった。

(7) 腸内細菌検査

腸内細菌検査のスクリーニング法として遺伝子検査（マルチPCR）を導入して3年が経過した。今までの培養法に比べ高感度な為、サルモネラ属菌の年間検出率は、これまでの3~4倍に当たる0.08%にまで増加した。培養法では検出できなかった健康保菌者の抽出において、遺伝子検査の有用性を感じている。引き続き腸内細菌検査業務を継続するにあたり、契約先のニーズに対応した付加価値（食品検査・衛生調査・精度重視）の充実も図り、実施件数の増加に繋げていく。

神戸市保健所からの感染症対策に基づいた腸内細菌（赤痢、パラチフス、腸管出血性大腸菌O157）及び喀痰検査については、今年度も引き続き検査を受託した。今後も検査精度の維持向上に努め、保健行政に貢献していく。

(8) 作業環境測定

総合労働安全衛生機関として、「働く人の安全確保と健康の維持」並びに「事業者による作業環境のリスク管理の推進」を目的に健診事業と併せて、有害物質取扱い事業場を中心に屋内並びに屋外作業場あるいは居室を対象として、作業環境測定を実施した。

近年の有害物質の新たな法規制拡大や監視強化、事業者の健康意識の高まりを反映して、1,482箇所での測定を実施した。特に、昨今の産業活動に起因する健康被害や危険性・有害性の調査（リスクアセスメント）の義務付けに伴い、印刷、試験研究等に使用される有機溶剤等を対象とする測定を249箇所でも実施した。

今後も、特殊健康診断と一体となり、事業場の労働衛生のトータルサービス（健康管理・作業管理・作

業環境管理)を提供していく。

(9) 食品検査等

食品等事業者の保存試験や食中毒予防に関連した自主衛生管理に基づく検査であり、今年度の実施件数は、理化学検査において項目数で3,577件、細菌検査においては9,777件であった。

腸管出血性大腸菌、カンピロバクター、ノロウイルス等による食中毒予防や異物混入防止に対する消費者並びに食品等事業者の関心は常に高く、食品等事業者はより高度な衛生管理が求められており、今後も衛生管理指導、施設衛生調査、窓口相談業務の充実や、きめ細かい顧客対応により衛生管理体制の構築を支援していくとともに、今後はHACCPによる衛生管理が制度化され、事業者の規模・業種等に応じたHACCPによる衛生管理の実施が求められることから、食品等事業者における導入推進のための適切な指導、助言を行いHACCPの導入を支援していく。

(10) 水質検査

今年度の実施件数は、建築物衛生法や飲用井戸に係る水質検査、プール及び公衆浴場等衛生管理上の水質検査は合計で1,631件であった。

今後も飲用に関わる水質検査及びプール・公衆浴場等の衛生確保に資する検査を中心に事業を進め、利用者の安全安心の確保に寄与していく。

(11) 水道施設検査（貯水槽水道検査）

ビル、共同住宅、学校等の一定規模の貯水槽を有する施設における水道設備の衛生的な維持管理にかかる検査であり、今年度の実施件数は、県下の水道法に規定される簡易専用水道が3,040件、有効容量が10m³を下回る小規模受水槽水道が765件、その他準用等を含めた合計は3,824件であった。

今年度は平成29年度に引き続き、神戸市による定期検査未受検小規模受水槽水道及び簡易専用水道に対する巡回調査業務を受託し、郵送による受検勧奨、現地での点検実施及び啓発を実施した。

貯水槽水道検査結果等は、設置者の了解を得たうえで、行政庁に速やかに代行報告することで、衛生上問題がある施設に対する行政の指導や、検査受検率の向上に寄与するとともに、引き続き貯水槽水道の管理水準の向上や自主衛生管理を支援することにより、利用者の安全安心の確保に寄与していく。

3. 予防医学に関する調査研究事業

(1) 調査・研究

がん検診や特定保健指導をはじめとし、各種健診・検査において得られたデータ等をもとに調査研究を行い、様々な分野でそれらの成果を発表・発信した。

①論文発表（総説論文、原著論文等）

○篠原弘珠：郵送法における大腸がん検診の検査有効期間の検証，予防医学ジャーナル，501：58-63，2018

○荒川夏子：特定保健指導の標準化と効率化をめざして—指導記録をコード化する試み—，予防医学ジャー

ナル, 501 : 66-69, 2018

- 富田安彦：川崎病における肝機能障害の意味：アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ、アラニンアミノトランスフェラーゼ、総ビリルビン、およびC反応性タンパク質レベルの経時的変化, *Pediatric Investigation*, Mar.3 (1) : 39-46, 2019

②学会報告等

- 山浦泰子：喫煙が Subclinical calcific aortic valve disease に及ぼす影響 . 第 9 回日本心臓弁膜症学会. 京都. 2018.12.14-15
- 山浦泰子：失敗例・失敗しそうになった例から学ぶ Case conference. 日本心エコー図学会第 23 回冬季講習会, 大阪, 2019.1.26-27
- 松田淳子：集団健診における特定保健指導初回面接の分割実施—現状と今後の課題の報告—, 第 53 回予防医学技術研究会議, 茨城, 2019.2.7-8
- 直木真由美：胃内視鏡検査時の唾液汚染防止の工夫～ネックピローを検査用枕に使用して～, 第 53 回予防医学技術研究会議, 茨城, 2019.2.7-8
- 東塚伸一：大腸がん検診における逐年受診の重要性について—地域大腸がん検診の成績から—, 第 53 回予防医学技術研究会議, 茨城, 2019.2.7-8
- 田中安希子：健診に組み込まれた禁煙サポート—禁煙成功要因の検討—, 第 53 回予防医学技術研究会議, 茨城, 2019.2.7-8
- 猪鼻邦彦：新システムによる学校脊柱側弯症一次検診の実施について, 第 53 回予防医学技術研究会議, 茨城, 2019.2.7-8
- 東塚伸一：大腸がん検診の精度管理—便潜血キットの市販化と精度管理の問題点について, 平成 30 年度予防医学事業中央会医師協議会, 福井, 2019.3.8-9

(2) 健診・検査で得られたデータの活用

①事業年報の配付

内容の充実を目的に、平成 29 年度事業年報の編集において、地域保健の胃がん、乳がん、大腸がんの検診について追跡調査の結果を新しく加えた。

健康管理、健康対策の基礎資料等として地方公共団体・保健医療機関等広く配布し情報提供した。

②健診・検査データ等の活用

(ア) 統計解析や調査研究結果に基づいた判定や保健指導の実施

検査データの積み上げにとどまらず、問診データ等の諸条件に基づく複合的な統計処理を行い、生活習慣、既往歴等と健診・検査データの関連性を見出し、実際のデータから得られた知見等を保健指導・

栄養指導に有効活用した。

○健診に組み込まれた禁煙サポートー禁煙成功要因の検討ー

(イ) 統計解析や研究により取得した情報の提供

健診・検査データの統計処理から得られた知見や、健診で用いられる様々な検査の意義等の情報を講演会や学会等で発表し、健康管理に役立つ情報を積極的に発信した。

○大腸がん検診における逐年受診の重要性についてー地域大腸がん検診の成績からー

4. 健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業

(1) 健康づくり事業

①健康学習

疾病予防や健康づくりに関する知識の普及啓発を目的に公開講座の「KOBE 健康くらぶ土曜健康科学セミナー」を開催した。疾病予防に関する知識や情報に加えて最新の医療情報や介護予防に結びつく内容を取り上げ、毎回100人を超える受講者にわかりやすく興味深いと好評を得た。

②健康づくり教室

慢性腎臓病や糖尿病に罹患するリスクの高い方を対象として、疾病予防と生活習慣改善を目的とした健康づくり教室を開催した。医師の講話と保健師および管理栄養士による生活習慣改善支援を中心とした内容で、22回の開催に700名が参加した。

③禁煙外来

健診センターにおいて、予防医学の観点からニコチン依存症に対する禁煙治療を保険診療で実施する体制を整えている。当協会の受診者を中心に、より多くの受診者の生活習慣改善に寄与できるようPRを継続していく。

(2) 健康づくり支援事業

勤労者や各種団体等を対象に、健康づくりプログラムを提案するとともに、管理栄養士・健康運動指導士等の専門スタッフを派遣し、健康づくりを支援した。

《設備機器等の更新・整備》

(1) 設備機器等の更新・整備

業務の改善を目的として、設備機器等の整備を行った。

- ①PACS・レポートシステム
- ②胸部X線読影支援システム
- ③マンモグラフィデジタルX線撮影装置（2台）
- ④胸部デジタルX線撮影装置（車載用）
- ⑤胸部デジタルX線撮影装置（施設）
- ⑥超音波画像診断装置
- ⑦上部消化管汎用ビデオスコープ（2台）
- ⑧業務用高速プリンター
- ⑨眼底カメラ
- ⑩全自動内視鏡洗浄・消毒装置
- ⑪超音波骨密度測定装置

《寄附金受納》

○寄附者

宮本 武 様

事業実績明細

(疾病予防のための健康診断及び検査事業・健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業)

事業名	種別	内容	件数等		
			当年度	前年度	増減比
疾病予防のための健康診断及び検査事業	地域保健	特定健康診査等	59,357人	62,130人	95.5%
		がん検診(施設実施分含む)	133,865人	128,758人	104.0%
		結核検診	49,536人	53,368人	92.8%
		エイズ検診	2,831人	2,406人	117.7%
	学校保健	腎臓・糖尿病検診	363,177人	365,167人	99.5%
		寄生虫検査	6,942人	12,063人	57.5%
		心臓検診	73,659人	75,278人	97.8%
		脊柱検診	26,742人	27,219人	98.2%
		結核検診	76,609人	74,254人	103.2%
	産業保健	一般健診	163,949人	163,257人	100.4%
		特殊検診	18,690人	19,019人	98.3%
		協会けんぽ生活習慣病予防健診	25,565人	24,219人	105.6%
		がん検診(施設実施分含む)	92,740人	90,804人	102.1%
		労災二次健診	101人	101人	100.0%
		ストレスチェック	26,545人	27,757人	95.6%
	総合健診	総合健診	6,401人	6,534人	98.0%
	保健指導	特定保健指導等	1,354人	651人	208.0%
	細胞診	子宮がん細胞診	39,759件	39,024件	101.9%
		喀痰細胞診	9,142件	8,510件	107.4%
	腸内細菌検査	腸内細菌検査	76,467件	81,463件	93.9%
作業環境測定	作業環境測定	1,482件	1,510件	98.1%	
食品検査等	食品検査	13,354件	9,450件	141.3%	
水質検査	水質検査	1,631件	1,966件	83.0%	
水道施設検査	簡易専用水道検査等	3,824件	3,937件	97.1%	
健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業	健康づくり事業	健康学習・健康づくり教室	1,985人	5,822人	34.1%
	健康づくり支援事業	講師派遣等	58回	97回	59.8%